

遷喬地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 令和元年7月19日（金）18:57～20:10
- 2 場所 遷喬地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 42名
市出席者 5名（深澤市長、河井総務部長、高橋企画推進部長、
安本市民生活部長、有本中心市街地整備課長）



4 テーマ 地域の活性化と市役所本庁舎跡地活用について

5 概要

（地元あいさつ）

遷喬地区では、中心市街地の空洞化現象等が進んでいることによって、特に商店街を中心に沈滞感が蔓延している。そのような中で市役所が移転となるが、残念ながら跡地の具体的な活用策は示されていない。現本庁舎周辺の衰退を危惧しており、跡地の活用について市の考えを聞きたい。

また、地域としては、近年増えている空き家、空き店舗対策について、市とともに努力したいと考えている。

（市長あいさつ）

遷喬地区は現本庁舎に最も近い地区である。跡地の活用について忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。

遷喬地区の取組の説明

【テーマの背景】

当地区では中心市街地の空洞化、少子高齢化が急速に進行し、地域全体に沈滞感が広がっています。このような中、市役所本庁舎が移転するが、庁舎跡地の活用策に見通しが立っておらず、現本庁舎周辺の衰退の加速が目に見えるようで、周辺住民は心配している。

まちなかのにぎわい創出の観点からも、市が現本庁舎等の跡地の具体的な活用策をどう考えておられるかを聞かせていただき、地域としても空き家・空き店舗の利活用等、まちなか居住促進につながる取り組みを検討していきたいと考えている。

【地域の取組み】

平成28年から「サマーフェスティバル遷喬」を開催している。昨年は占いコーナー、オリジナルアクセサリ作りなど様々なイベントも企画し、地域から100人を超える参加者があった。

また、毎年地区内の店舗に協力をいただき、「1コイン味めぐり」を開催している。昨年は開催から8回目を迎え、毎年参加者が増えている一方で、地区内の店舗が廃業されたり、人手不足による参加辞退があるなど、苦慮している。

そのほかの取り組みとしては、市とともに地区内の空き家の利活用調査を進めている。平成29年、30年に鳥取大学によるアンケート調査で空き家の所在、件数が明らかになった。今後は空き家の利活用に向け、持主に対して意向の聞き取りを進めていく予定としている。

今後も増えていくであろう空き家・空き店舗を活用することで、地域へ人を呼び込みたいと考えている。また、庁舎跡地活用事業とも連携することで、人の往来が増え、商売がやりやすい環境になるなど、地域が活性化することを期待している。

(地元)

校区についてだが、学校選択制の中に隣接区域選択制というものがある。隣接する区域内の学校を家庭ごとに選ぶことができるというものだが、そういう制度を採用する考えはあるのか。校区審議会の会議録を見ても話が進んでいないように思う。

(市長)

明治小学校のような小規模校においては、校区外から通学している例もある。自由に選ぶとなると難しいと考えている。教育委員会にも伝えておく。

(教育総務課補足)

鳥取市教育委員会では、地域とともにある学校区づくりを推進しているところであり、隣接区域選択制の採用については、検討は行っておりません。

(地元)

現本庁舎の跡地について、鳥取市の考え方が見えないがどのように考えているのか。

(市長)

跡地の活用については、いろいろなご意見をいただいている。鳥取市としても、平成27年度に内部で委員会を作り検討してきた。また、それ以前にも、耐震改修か移転新築かという議論の中で、移転新築に当たっては、跡地の利活用についても具体的な活用策をお示しして検討していただくことが必要ではないかということで、内部で検討した経緯もある。第3期中心市街地活性化基本計画においても、跡地の利活用は重要な課題と位置付けている。百年の大計に立って、鳥取市の将来を見据えてしっかりと検討していくことが必要だと思っている。

7月31日には外部の有識者会議を開催し、議論していただく予定としている。市議会の特別委員会では解体撤去して跡地を利活用する形で報告をいただいている。これから具体的に検討を進める時期とっており、何年も先送りにせず、一定の方向をなるべく早くお示しすることが必要と考えている。

財源については、基金も一定の額を積み立てしているほか、事業の内容、種類によって活用できる財源がいろいろある。できる限り鳥取市の負担が少なくなるよう、国等の有利な財源を活用し進めていかなければならないと思っている。

空き家の利活用については、空き家バンク等の取り組みを行っており、空き家、空き店舗を限りなく少なくしていく取り組みを進めていきたいと考えている。具体的な事例等があればお知らせいただくと大変ありがたい。

(地元)

教育委員会の校区表では尚徳町は遷喬校区となっているが、跡地に仮に集合住宅ができれば遷喬校区になるのか。

(市長)

今のところ集合住宅を建設する考えは持っていないが、校区としては遷喬校区という扱いになると思う。

(地元)

跡地の利活用について、できるだけ早くと言われるが、現実には11月になったら移転してしまう。いつごろまでにこうしたい、という一定の目標を持っていただかないと、廃墟のようになり見映えも悪く、鳥取市の恥をさらすようなことにならないか心配しているが、いかがか。

(市長)

老朽化が進む庁舎が使用されずにそのままとなることは景観的にも問題があると考えてい

る。市議会の特別委員会でも解体撤去すべきではないかと、一定のまとめをしていただいたと思っている。まずは速やかにその方向で整備をすることが利活用の前提と考えている。

(地元)

いつごろまでに、ということをお願いしたい。もう少しスピード感がないといけないのではないか。

(市長)

非常に多様な意見をいただいております、一つの方向にまとめるのはなかなか難しいが、全市の視点で利活用を考えていくことが大切だと思っている。

中心市街地の二核二軸（鳥取駅周辺、鳥取城跡周辺の2つの核と、それらをつなぐ若桜街道、智頭街道の2つの軸）の都市構造を踏まえまちづくりにおいて、現本庁舎の跡地は鳥取城跡を中心とした歴史文化ゾーンの主要なエリアの一つだと考えており、そこにふさわしい活用方策があると思っている。

スピード感がないといけないというお話をいただいたが、これは大変大きな課題である。二度と確保できないような中心市街地の一定の面積を持った土地なので、我々もしっかり考えていかなければいけないと思っている。

(地元)

地域の者からすれば、鳥取市から具体的な提案がなされ、それについて地区の住人として意見させていただきたいと思っている。たたき台を出していただかないと話が進まない。市役所を移転するのであれば、移転後の計画も併せて2本立てで進めていくべきではないか。

(市長)

移転新築ということであれば、併せて跡地の利活用についてもお示しするのが基本だと思っております、内部で検討し一定のまとめをした経緯もある。ただ、それが移転新築ありきではないかという厳しいご意見もいただいたこともあり、なかなかお示しできる状況がなかったことも申し上げておきたい。

市民会館や福祉文化会館など、老朽化が進み改修や建て替えの時期が近づいている施設を複合化して跡地に建設するというのも一つの考え方だと思う。また、そのほかの施設等を設置するというようなご意見もあろうかと思っている。時間だけが経過したのではなく、新本庁舎をどうするのかという議論があったことにより、跡地利活用の議論が進まなかったということをご理解いただきたい。

(地元)

ここは深澤市長が重い決断をしていただき、鳥取市の発展のためにどうすればいいのか、できるだけ短い時間でまちづくりの計画を作っていただきたい。

(市長)

市民の皆さんのご意見を真摯に伺っていくプロセスはもちろん必要だが、一定の意見集約をすれば行政として決断していかなければいけないと思っている。

(地元)

先ほど市長が建設ありきだと思われると言ったが、建設ありきではなかったのか。当初、駅の北口に新庁舎を建てるとなっていたのが、市立病院の跡地になった。建設ありきだから提示したのではないか。そこを本音で言わないから皆さんの意見が新しいことに向かわないのではと思っている。

これだけ時間をかけて何一つ方向性が出ていない。何かを作るという本音があるからこういうものを作ってほしい、と言える。作るかどうかもわからないのに意見を言え、ではなく、方向性を本音で言ってほしいと思う。何かを作るかどうかという議論を進める前に一度更地にするのは良いと思う。

(市長)

本音でどう考えているのかということについて、私は本音と建前の使い分けは上手な方ではないので、いつも本音かそれに近いお話をさせていただいているつもりでいる。跡地については当面更地で活用していくというのも選択肢としてあると思う。これからアンケートやワークショップ等でご意見をいただきたいと思っているが、鳥取市が考えて、それに誘導するようなことはやるつもりはないし、やるべきではないと思っている。

移転新築ありきで進んだのではというお話もあるが、決してそうではない。平成22年度から白紙でスタートしたということは改めて申し上げておきたい。

(地元)

現在の市民体育館が結構古くなっていると思うが、新築か修理か、今後どういう形に持って行くのか。大体どこの体育館も冷房が入っているが、市民体育館は入っていない。跡地の活用の一つとして、市民体育館のことを考えてもらいたい。

(市長)

市民体育館については新築整備をするという方向で事業を進めており、修理という考えは持っていない。民間活力等を活用して市の財政負担を軽減しながら整備に向かっている状況にあり、今の場所で新築をするという方向を既に出している。冷房設備については、災害発生時の避難所として活用していくことも考え、必要ではないかと考えている。

(地元)

本庁舎の撤去については分かったが、第2庁舎も同じように考えたらよいのか。第2庁舎の両隣は民家があり、空き家になると困る。町内としては本庁舎よりも早く撤去していただきたい。

(市長)

第2庁舎は耐震性を考えると、本庁舎より問題があると考えており、速やかに解体撤去すべきだと思っている。民家が近いので、安全に撤去できるよう進めていく必要がある。更地のままではなく、解体撤去後の具体的な利活用等もあわせて考えていかなければいけないと思っており、本庁舎と同様に市民の皆さんのご意見をお伺いしていきたい。

(地元)

市議会の特別委員会でも本庁舎の解体撤去の方向が出ているが、あとどんな手続きをとれば解体まで進むのか。市長としてはいつごろまでに解体したいと思っておられるのか。

(市長)

具体的な日時まではお示しできないが、議会で方向を出していただいたことを受け、速やかに解体撤去を具体的に進める必要があると考えている。このまま残すと維持に係る経費も発生するほか、景観上、安全管理上の問題もある。

手続きとしては、調査設計、実施設計、発注等が必要となる。

(地元)

解体で更地になってしまうと、市民のための住民票や印鑑証明が袋川の北側エリアでできなくなってしまいが、その辺りはどう考えておられるのか。今の本庁舎で手続きをされる方が駅南庁舎の12万件に対し、7万件もある。

(市長)

本庁舎では証明コーナーを設置している。休日夜間の対応もしており、その部分の件数もカウントされている状況があると思う。サービスコーナーでの業務は新本庁舎でそれ以上のサービスとなるような形で引き継いでいきたいと思っている。

跡地に窓口サービスを所掌する施設を設置することは考えていないが、マイナンバーカードが普及してきており、コンビニやいくつかの郵便局等でも住民票等の交付サービスを利用していただけの状況になっている。いろんな形で利便性を高めていくことが必要だと思っている。市民の皆さんへのサービス低下につながらないように努めていきたい。

(地元)

高齢者の世帯が多いので、あっちやこっちに行けというより、跡地に限らずどこかに1か所設けてはどうか。例えば、空き家、空き店舗対策の一環として若桜街道の空き店舗を活用してはどうか。

(市長)

いろいろな形、場所でサービスを受けられる時代になりつつあると思っており、庁舎の窓口だけでなく、いつでもどこでもサービスを受けていただけるように進めていかなければな

らないと考えている。ご意見として承りたい。

(地元)

鳥取県はまんが王国という大きな看板を上げている。鳥取市には谷口ジローという名看板がある。それを軸にまちづくりを興していただき、庁舎の跡地に谷口ジロー記念館を作るという構想はどうか。

(市長)

谷口ジローさんは鳥取市が誇れる世界的に評価の高い漫画家であり、これまで鳥取市もいろいろな形で顕彰させていただいた。これからも地域の皆さんと一緒にいろいろな形で顕彰事業に取り組んでいきたい。記念館についてはご意見として承りたい。

(地元)

中心市街地の第3期総合計画づくりを今行っていると言われたが、いつごろその計画が出されるのか。また、その中に現本庁舎跡地の活用と、空き店舗の活用について入れる予定があるのか。

(中心市街地整備課長)

第3期の計画はすでに昨年からスタートしている。今年を含めてあと4年間事業をしっかりと取り組んでいく。現本庁舎については、検討を進めると基本計画の中に記載している。空き店舗活用については、第1期の計画から対策を進めている。抜本的な改善にはなっていないが、従前からしっかり取り組んでいる。

(地元)

空き店舗の問題ではシンポジウムや検討委員会などをされているが、なぜうまくいっていないのかという、問題点の分析もしていただければ改善がしやすいのではないかと。現本庁舎の跡地の問題については、意見を今後市に提案すれば検討していただけるのか。市長はトップダウンではなく、ボトムアップで進められたいのではないかと感じている。

(市長)

空き店舗の問題については、具体的な数値目標を立てて、第1期の計画から取り組んできたが、なかなか難しい状況がある。いろいろな要因があると考えており、それらの分析等を行い、現在の第3期中心市街地活性化基本計画で、引き続き、空き店舗が限りなく少なくなるよう取り組んでいきたいと思っている。

跡地の利活用については、ボトムアップだけではなく、鳥取市として判断していくことも必要と思っているが、プロセスとして多くの皆さんのご意見を伺っていくことは大変重要だと考えている。意見集約をして鳥取市として方向性を出していきたい。

(地元)

若桜街道や智頭街道で市と連携してペットのフン対策を行っているが、まだ放置される飼い主がおられる。フンが放置されるとその地価が下がる。また、物件の前が汚れていると活用しようと思う人も減る。非常に大きな課題の一つとっており、ぜひ市も犬のトイレストリートにならないよう取り組んでいただきたい。

(市長)

飼い主のマナーに期待したいが、良好な環境を保っていくということは重要なことであり、市としてもいろいろな形で啓発をしていかなければならないと思っている。

(地元)

アーケードがあって散歩しやすいということで、地域外から車で来られて犬の散歩をされている。ペットのフンの影響か、アーケードの柱が腐り始めており、多くの方が困っている。ここの地域だけでは対応できない問題があると思う。

(市長)

他地域から来られることは想定していなかった。全市的な啓発や呼びかけが必要だと思っており、何か機会がないか考えてみたい。

(市民生活部長)

ペットの散歩に関するマナー向上について、呼びかけ等はその都度させていただいているが、地域外から来られるということは初めて聞いた。この状況に応じた啓発ができないか担当部署と相談してみたい。

(生活環境課・生活安全課補足)

本市では、「鳥取市快適な生活環境の確保に関する条例」により、公共の場所での飼い犬のフンの放置を禁止しており、路面表示シートや啓発用ポスターの配布を行うとともに、ペットの飼い方に関する特集記事を市報に掲載したり、狂犬病集団予防接種時に啓発チラシを配布するなど、ペットの飼い方に関するマナー向上の全市的な啓発事業を行っています。また、鳥取市保健所においては、令和元年度に新たな啓発事業として小学生を対象とした「鳥取市保健所犬管理所見学会」を実施しました。

これからも継続してペットの飼い方等に関する啓発を関係機関とも連携を図りながら実施していきたいと考えています。

(地元)

跡地を考えていただくときに、子どもたちのことも考えてほしい。真教寺公園もあるが、小さな子どもがたくさん遊んでいて、元気な小学生はなかなか一緒には遊びにくい現状がある。

(地元)

市の施設が老朽化しているとのことだが、県外で普及しつつある耐震工法で、包帯補強工法はご存じか。鉄筋コンクリートの柱を強化ポリエステルで締めつけていく工法で、今までより少ない費用で耐震改修ができるそうだ。数年前にテレビでも紹介されていたが、鳥取県では話題になっていない。税金の節約になるため、検討いただきたい。

(市長)

具体的にどういった工法か勉強させていただきたい。

(市長あいさつ)

本日のメインテーマは庁舎跡地利活用だったと思う。しっかりご意見を伺い一定の方向性をできるだけ早くお示しすることが必要と考えている。今日はいろいろなご意見をいただいた。しっかり受け止めさせていただきたい。

7月31日には検討委員会で意見集約の方法等も具体的に議論、決定いただくことになっており、そんなに先送りするという事にはならないと思っている。また、議会の特別委員会の議論等も注視していきたいと考えている。

これから人口減少や少子高齢化が進んでいく中で、鳥取市がこれからも魅力ある、活力あるまちとして存続、発展していくという視点で跡地の利活用について考えていく必要があると思っている。